

## VI. 教員養成における教育の質の向上に係る取り組みについて

教職課程履修学生に対して、教職への志向や必要な資質・知識・技能、教職課程の履修内容について指導を行っています。さらに、学外での教育実習、介護体験、学校支援ボランティア、進路指導、キャリア教育指導において、学年ごとに個別指導を行い、教員養成に取り組んでいます。

### (1) 「教職センター」の設置

教職課程の質の向上と運営の充実化を目指し、教職課程センターを設立しました。

教職課程センターは、次の2つの目的で活動しています。

1. 教職課程と教員養成に関連する業務の改善・充実
2. 教員採用試験受験者への指導・助言の充実、および教職課程履修者のキャリア支援

教職センターは教職課程の全学組織であり、教務学生部と入試広報部の職員、各コースの教員、教職支援室から構成されています。このセンターでは教職課程の運営に関する重要事項を審議・決定し、学生へのサポートを全学的に提供しています。

### (2) 「教職支援室」における個別指導・進路指導

教職支援室では、元教員による情報提供、相談、講演会、ガイダンスなどが行われています。学生は教職支援室を訪れ、教員就職や地域の教員採用状況に関する情報を得ることができます。また、教職支援室では学生の教職への意欲や状況を把握し、面談や相談を通じて学生の課題を確認し、目標に向かってサポートを提供しています。

### (3) 「多様な体験学修」の提供

本学では、3年次に小学校実習、4年次に中高教育実習を原則として実施しています。教育実習においては、事前指導と現場実習を統合的に考え、特に事前指導では課題の発見と補完を重視し、充実した学習を提供しています。事前事後指導には、教育実習報告会やゲストスピーカーを招いた内容豊かなプログラムも含まれています。

また、介護等体験においても、社会福祉協議会や県教育委員会から特別支援教員を招聘し、講義や体験学修を行っています。さらに、近隣小学校との連携を通じて小学校現場での実習活動を行い、学校現場での経験を提供しています。

### (4) 「教職履修カルテ」の活用

「教職履修カルテ」による自己評価を通じて、学習成果や成長について振り返る機会を提供しています。特に「教職実践演習」科目では、履修カルテに基づいた課題の特定と充実を図っています。

教職履修カルテの記入状況と内容は、教員が学期ごとに確認し、学生に合わせた指導を行っています。

### (5) 教職課程担当教職員の研鑽

教職課程の質向上のために、授業評価アンケートを活用し、教職員へのファカルティ・ディベロップメント (FD) およびスタッフ・ディベロップメント (SD) を展開しています。実践的な科目を除く全ての

科目について、学期ごとに授業評価アンケートを実施し、教職員へのフィードバックを行っています。